



Japan Optometric Association News

公益社団法人 日本眼鏡技術者協会会報

編集発行 「認定眼鏡士®」を認定・教育する唯一の公益社団法人
公益社団法人 日本眼鏡技術者協会
発行人 津田節哉 編集人 辻 戦三

〒 532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原1-2-6 新大阪橋本ビル9F
TEL 06-4807-5070 FAX 06-4807-5009 <http://www.megane-joa.or.jp>
E-Mail joa@maple.ocn.ne.jp



CONTENTS

- 巻頭言
眼鏡業界の秩序ある発展を 津田節哉会長 2
- 誌上眼鏡学
コントラストと視力(何となく見えにくい) 内田 豪専任講師 4
- ブロック会議 7
- close-up OPT
インディビジュアル眼鏡レンズの解説 金子 弘WOC校長 8
- 教育部・消費者からの眼鏡相談 11
- 2015年度卒業研究論文〈要約〉
アイポイントのばらつきについて WOC 青山愛実 12
- 理事会 14
- 平成 28 年度事業計画 16
- 平成 28 年度収支予算書 18
- 公益事業区分の解説 19
- 広報部・編集後記 20





眼鏡業界の秩序ある発展を

公益社団法人 日本眼鏡技術者協会
会長 津田節哉

2016年の年明け早々、世界経済は中国株の暴落や、原油価格の下落に見舞われ、波乱含みのスタートとなった。

2月には、東京金融市場で住宅ローンや企業向け融資の目安である10年国債の利回りが初めてマイナスとなり、最も安全な運用資産とされてきた国債だが、マイナスの利回りで購入して満期まで保有しても利益の出ない異常事態である。

来月には伊勢志摩サミットが開催される。日本でG7主要国首脳会議が開かれるのは、北海道洞爺湖サミット以来8年ぶりである。

夏の参議院議員選挙から18歳選挙権が始動する。そして8月には五輪、パラリンピックがリオで開催される。明るさを取り戻して秋を迎えたいものです。

昨今の日本の政界は、絶対過半数を占める自民党一党による支配、しかも安倍総理の強権による独裁が隔々にまで及んで、特に安保法や特定秘密保護法は激しい世論の反対をよそに成立して、わが国の将来の防衛や秘密保護のあり方にも大きな影を投げかけております。

一方、経済面においては原油価格の低迷も手伝って、アベノミックスが目標とした小売物価指数2%引き上げの可能性に黄信号が点滅し、今後も中国経済の減速や更なる消費税の引き上げが、デフレ経済への逆戻りを促して、消費者マインドは一向に回復の様相をみせず、眼鏡小売業界にも明るさが認められません。

50周年を迎えた技術者協会

そのような環境の中で、(公社)日本眼鏡技術者協会は昨年創立50周年を迎え、6月には記念式典、総会、祝賀会を開催いたしました。昭和31年に任意団体として発足した当時は試験を行って、合格した人を「眼鏡士」と認め、それらの人々の集まりである「日本眼鏡士協会」という名称を用いていましたが、社団法人格を

取得するにあたり、「眼鏡技術者協会」と団体名が変更されたいきさつがあります。おそらく「眼鏡士協会」では有資格者の団体とみなされる恐れがあったからでしょう。

その後、昭和43年には当協会と関西地区の有志が中心となって現在の日本眼鏡技術専門学校が設立されるなど、主に教育事業を行う団体として推移して来ました。

眼鏡技術者の資格確立の分野では、昭和60年に「眼鏡調整士法案第二次試案」で日本眼科医会との合意が得られたにもかかわらず、眼鏡業界の意思の不統一のため、この法案が廃案になったことは未だに悔やまれる出来事でした。

当時はもちろん5割引などの商法も始まってはありましたが、眼鏡小売業界は全眼連と全時連とで業界の80%は構成されており、眼鏡をあくまで「医療用具」とみなして取り扱う傾向が主流をなし、今日のように眼鏡を雑貨視するような風潮は未だ見られず、「初めに資格ありき」といった本来の眼鏡販売のあり方を確立することが出来た筈であると思われるからであります。

認定眼鏡士制度の制定

その後も資格制度の確立を図るための努力は継続され、平成6年には有識者懇談会を開催し、まとめられた意見書を基に折衝が続けられましたが、眼科医会との話し合いは頓挫したために、平成11年に資格制度に関するワーキンググループを技術者協会内に作って検討した結果打ち出されたのが「認定眼鏡士制度」でありました。

平成13年に立ち上げられたこの制度は、当初は眼鏡学校を卒業していない人たちをも対象にしたため、当初はAコースとSコースに分かれていましたが、生涯教育を継続して受講することにより進級する制度を取り入れながら、平成22年には3年制以上の眼鏡学校を卒業した人にも与えられる資格制度としてSコースに一本化し、SS級を標準等級として整備されました。

国家資格推進機構の設立

その時点で、資格制度制定委員会の委員長であられた大頭先生の提唱により、認定眼鏡士制度を国家資格にするため「国家資格推進委員会」が技術者協会内に立ち上げられましたが、その後技術者協会が公益社団法人に移行したこともあり、むしろ推進機構を資格問題に関して小売業界全体を束ねる組織とするため、この委員会を技術者協会から切り離して、「国家資格推進機構」の設立に至ったのが平成23年でした。

推進機構の初代表幹事であられた白山氏の急逝に伴い、私が代表幹事に就任して現在に至っておりますが、推進機構も当初3年で目標を達成するためのロードマップを作成し、推進してまいりました。一昨年の11月でその3年を経過しましたが、ロードマップ上の計画のうち実現できなかったことに、関連団体との意見の集約がありました。もちろん、その間も、関連団体との折衝は続けられましたが、あまり際立った進展が見られないことから、推進機構では昨年の10月に総会を開催し、官庁の折衝窓口を従来の厚生労働省に加えて、経済産業省や

文部科学省、更には消費者庁にも広げることを決定いたしました。

特に経済産業省は内部にヘルスケア産業課という部門があり、医療費の抑制が強いられている高齢社会の中で、抑制のために高齢者の健康や福祉に支障を来さないよう政策が進められていることから、メガネによるビジョンケアもその施策に含めて頂くことが望ましいと考えられます。

眼鏡業界の秩序ある発展のために

このように私が、二つの団体の代表をしているため、団体の性格がわかりにくいかとも思われますが、推進機構はあくまで国家資格の確立に取り組み、技術者協会は認定眼鏡士の教育と登録が中心業務となっているものとお考えいただきたいと存じます。

さて、50年の歴史を有する技術者協会の将来を考えると、我々は今何をなすべきでしょうか？。

超高齢社会を迎えて、最近ではどの団体も会員の減少といった問題に直面しております。技術者協会でも数の上では6,000名近い会員数を持っておりますが、10年前とくらべれば1,000名ほども減少しており、今後もこの傾向は止まりそうもありません。

この流れを止める有効な手段があるとするれば、やはり認定眼鏡士の資格を国家資格にして、有資格者の団体としての性格を明確に打ち出すことが出来るか否かが決め手となるでしょう。

もちろん、資格制度を確立することは団体の存続のためではありません。資格制度の確立は、ともすれば、眼鏡販売の本質から逸脱する商法が横行して、眼鏡販売に対する消費者の不信を招くことを防ぎ、むしろ消費者に適切なビジョンケアを提供すべく、眼鏡販売が本来の秩序をとりもどすことが主眼であります。

新年度にあたり、(公社)日本眼鏡技術者協会の諸活動と運営に一層のご理解とご支援を賜ることをお願いし、ご挨拶方々、ご報告とさせていただきます。

コントラストと視力（何となく見にくい）

公益社団法人 日本眼鏡技術者協会
専任講師 内田 豪

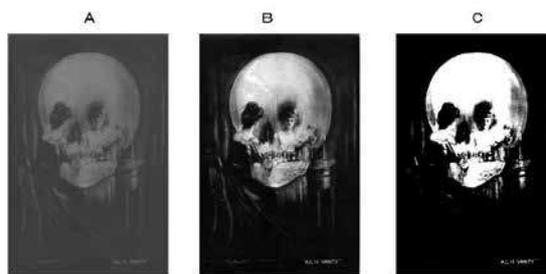
お店では良く見えていたのに、自宅で新聞などが「何となく見にくい」といった現象、皆さんも経験があることと思います。

この「何となく見にくい」という表現ですが、原因は様々な事が考えられます。白黒印刷された資料とカラー印刷された資料を比較すると印刷物の状況によっても変わりますが、白黒印刷された資料の方が何となく見やすく感じます。これは背景の紙と白黒印刷された文字などの明暗差が大きいためと考えられます。一般に明暗差、明るい部分と暗い部分の輝度の差のことをコントラストと呼びます。

コントラストは高低、大小として表現します。ここで、チョット面白い図版を紹介します。

図-1はC.Allan Gilbertが描いた作品ですが、Bを標準としてコントラストを低くしたAと高くしたCをそれぞれ示しました。「全ては虚栄」なるタイトルですが、コントラストが高い（高すぎる）と貴婦人が鏡を見ている画面が頭蓋骨に見えてしまいませんか。つまり、コントラストが高い状態、明暗をハッキリさせた場合でもあまり明暗差を大きくすると図版の情報が正しく得られない事があります。

図-1 コントラストの変化と見え方



微妙な濃淡の差が解ると理解しやすいのか
"All is Vanity", by C. Allan Gilbert 1873-1929.

適正な図版Bを極端に明るい場所で見ると白黒のグレー部分が見にくくなりますが、白黒の文字だけを判断するならば照明をある程度明るくすると解決します。むかし「本を読むときは暗いところで読まないこと」と注意されましたが、これは文字と本の紙との明暗差を大きくすることで読みやすくするためと理解出来ます。

しかし、明るさにも限度があることは衆知のこととおもいます。ところで、図-1のAの状態ですが、これを眼鏡に置き換えるとどのような状況なのでしょう。

これは透明なレンズを通して見たときに曇って見

著作者プロフィール

- 現 職**
- ・早稲田眼鏡学校（現 東京眼鏡専門学校）にて眼鏡光学、屈折検査、商品知識を中心に19年間教鞭を執る。
 - ・大規模眼鏡専門店、小規模兼業店、眼科検査主任として勤務後、「めがね技術コンサルタント」として独立。
 - ・2011年より東京眼鏡専門学校で非常勤講師として「眼鏡店実務・測定全般」の教鞭を執る。

- 活 動**
- ・中国瀋陽何氏大学、天津医科大学、温州医学院にて眼鏡技術講演
 - ・AMDA モンゴル国際医療奉仕団2010、2011眼鏡技術講習
 - ・IOFT、IMFなど展示会セミナー技術講演、メーカー展示会セミナーなど

主な著書、論文 ・眼鏡学ハンドブック、生涯教育テキスト共著

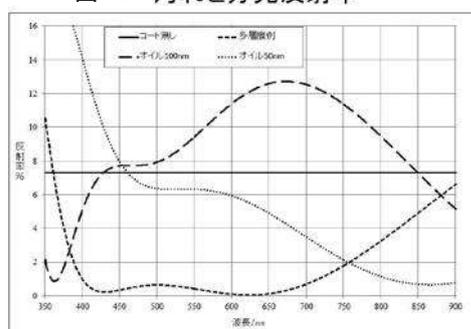


える状態を再現したものです。眼鏡でこの状態に最も近い状態は「レンズの汚れ」です。

ここは生涯教育 2014 で学びました。図-2に多層膜処理を施したレンズにオリーブオイルの厚みを変えて付着した状態の分光反射率を計算しました。

縦軸が反射率ですが、オリーブオイルの厚みや反射する波長にもよりますが、分光反射率がコート無しの状態より大きくなるが示されています。レンズの汚れは膜厚が均一とは限りませんので、かなり複雑な分光反射になりますが、いずれにしてもレンズの透明度が落ちます。ピントは合っていない像のコントラストを低下させる要因になるわけです。

図-2 汚れと分光反射率



眼鏡をクリーニング（超音波洗浄）すると、思いの外お客様が喜ばれるのは、レンズの汚れが落ちてスッキリ見え、コントラストが高くなった見え方になるわけです。

レンズの汚れとコントラスト低下、お店で日常的に用いるトライアルレンズにも同様に言えることです。特に累進のトライアルはその殆どが多層膜処理されていると思います。装用テストを行うときには「トライアルレンズのクリーニング」を怠らないようにしたいですね。

さてこのコントラスト、ピントの良さ悪しにも関係しています。

図-3にC.Allan Gilbertの描いた絵をボヤケの観点から考えてみたいと思い、少々工夫をしました。どうですか、絵画の正式なタイトルは「All Is Vanity」ですが、ピントがぼやけていた方がタイトルに近い表現になりそうですね。

私たちは眼鏡を調整する際に自覚的屈折補正值から度数を任意に変える場合があります。これはピンボケ状態を作ることにもなります。コントラストが適正であってもピントがぼやけた状態だと別の印象を与える見本を示したのですが、冒頭の「何となく

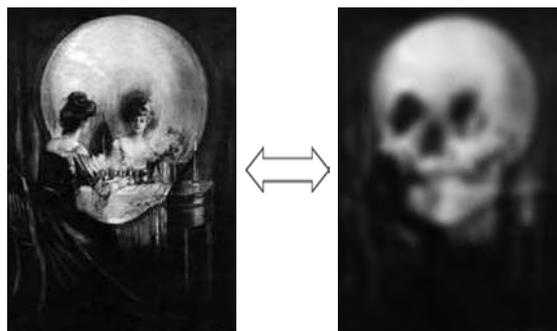


図-3 ピントと見え方

見にくい」という現象が、ピントが合っていない状態なのか、それとも何らかの要因で眼のコントラストが低い状態か、ここを見極めることが大切です。

ピンボケ状態を知る手がかりとして我々は視力値を参考にします。ですから、自覚屈折補正值、装用値、この状態で遠用近用と視力値は確実に測定し記録に残すことが大切になるわけです。

「何となく見にくい」こうした現象は事前に確認する方法はあるのでしょうか。実は最近と同じ視標でもコントラストを変える事が出来る製品があります。こうした視標を用いて自覚屈折補正值をチェックしておくことも大切です。まあ、視力標はそれなりの価格ですから手軽に導入することは難しいですね。そんな時は手元照明を利用して下さい。近用視力表を用いる時に「明るくして」「暗くして」双方の見え方を比較して下さい。極端に暗くする必要はありませんが、こうしたサービスはコントラストの状態を知る手がかりになります。

コントラストが弱い状態の人（眼）にはどのように対応したら良いのでしょうか。一つは先ほど述べたように、照明の調整、もう一つは文字などを大きくすることです。

図-4に新幹線700系と新型のN700系の座席番号を記しました。N700系の方が大きく解りやすくなっているのがわかります。眼に優しい表示とも言えそうです。

コントラスト、これをもっと視覚的に表示表現する手法にグラフで表示する方法があります。

縦軸に図版の明暗の強度、横軸に図版の密度（細かさ）を採用するとコントラストの様子をグラフ化できます。図-5はぼやけた状態、図-6は薄くした場合でそれぞれ信号として表したものです。縦縞の間隔はどれも同じですが、ぼけた状態と薄くした状態では信号の強度（縦方向のグラフの大きさ）が



図-4 座席番号 (左 700 右 N700)

小さくなっていますね。この縦縞の間隔の事を難しい専門用語で表すと空間周波数といいます。

縦縞の間隔を視力測定に使っているランドルト環の関係に置き換えた図が図-7になります。ここで、注意して欲しいのはランドルト環の濃さが同じでも小さくすると信号の強度が落ちるということです。同様に図-8は視標(ランドルト環)の濃淡を縦軸に、視標の密度(この場合視力値)を横軸にした図版を示しました。

こうして視標の濃淡と視標の細かさの関係をグラフ化したものをMTF(Modulation Transfer Function)特性とよびます。

お店に視標の濃淡が可変出来る視力標があったら、縦軸に濃淡の段階(濃い順番に1~4・5・6)として、横軸にその視標が読めた視力値を記して実験してみてください。

図-5 コントラスト-1

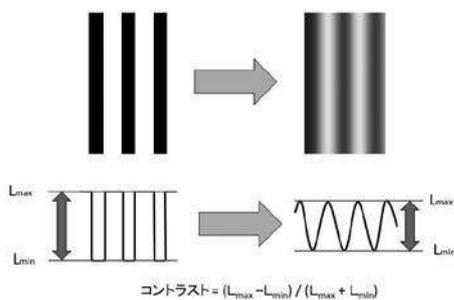


図-6 コントラスト-2
被写体のコントラストが変化

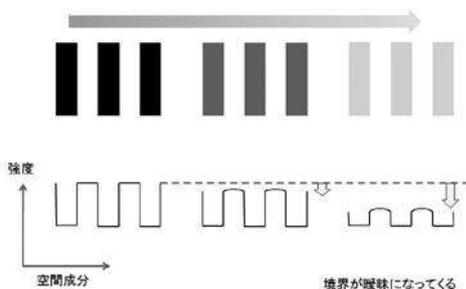


図-7 コントラスト-3
被写体の空間周波数が変化

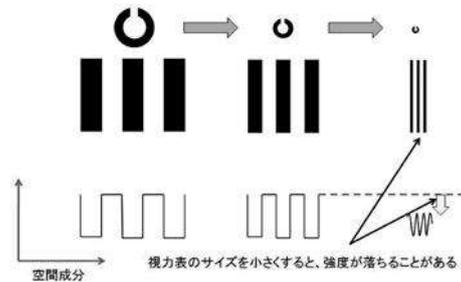
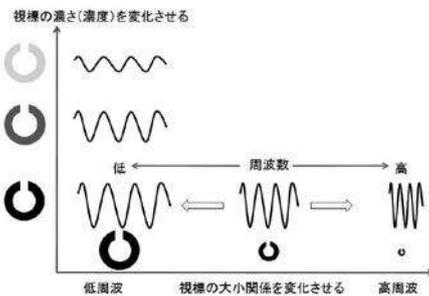


図-8 コントラストの考え方とグラフ



その特性が眼(眼鏡)を通して実測した眼の自覚的MTF特性(簡易的な)になります。

自覚的屈折補正值・装用値・残余屈折異常を設定した状態などにおける簡易的なMTF特性を実験してみることも興味深いと思いませんか。

生涯教育実技で時々チェックしますが、同じ視力値でも視標のコントラスト低くすると直ぐに見えにくくなる方と、平気な方と分かれて実に面白いです。

眼のMTF特性、最近では他覚的に測定出来る機器があります。グラフの読み方など含めて本年度生涯教育2016で紹介します。お楽しみに？

まとめ(コントラストを勉強して)

○眼鏡のクリーニングによって見え方が大きく改善することもある。

○装用テストに用いるトライアルレンズは常にキレイにしておこう。

○装用テストなどは明るさを変えて、見え方の変化をチェックしておこう。

○眼鏡の使用環境、部屋の明るさは適切に、特に暗い部屋での使用に注意しよう。

次回予告

IOFTや神奈川眼鏡協会、東海眼鏡協議会などで発表した資料などを基にインディビジュアルレンズを取扱うために注意すべき点をまとめてみたいと考えています。

四 国

2月10日に四国ブロック会議が松山市の国際ホテル松山で昼食会の後、田部ブロック長以下各支部の代表者及び青年部として6名の出席、本部からは片山副会長以下2名の合計15名の出席で開催された。片山副会長の挨拶の中で、認定眼鏡士資格がまだ国家資格になっていないこともあって認知度は低い状態にある。神奈川県支部のメガネの相談会などは非常に盛況で、そのような催し物などを通じて認知度を向上したい。議事としては、各支部の活動報告、各支部の問題点、次年度の生涯教育の日程確認、また本部事務局からは支部決算処理方法について等の報告があった。次回は高知県で開催することが確認された。またブロック会議に引き続いて日眼連・四国ブロック会議が開催された。(写真は四国ブロック会議)



近 畿

2月24日に近畿ブロック会議が京都市のウェスティン都ホテルで、鈴木ブロック長以下各支部の代表者及び青年・女性部として3名の出席、本部からは津田会長以下4名の、合計20名の出席で開催された。津田会長は挨拶および議論の中で、国家資格推進機構の最近の活動状況を詳細に報告した。議事としては、各支部からの活動報告があり、また本部事務局からは決算処理日程に関するお願いなどがあった。個別のテーマとしては①眼鏡技術者国家資格推進機構の最近の動き、②財務の見地からの協会運営などが議論された。またブロック会議に引き続いて近畿眼鏡協議会の定例会が開催され、終了後は懇親会の席で種々の意見交換をする中で親睦を深めた。(写真は近畿ブロック会議)



北海道

3月16日に北海道ブロック会議が札幌市のカタオカビル会議室で、佐藤ブロック長、金井副会長以下支部の関係者、本部からは津田会長以下2名の、合計15名の出席で開催された。津田会長は挨拶の中で、国家資格推進機構としての最近の活動状況を報告した。議事としては、支部の活動報告(①平成27年度の事業報告、②平成28年度事業計画及び収支予算、③生涯教育/実技講習の日程と内容の確認)、また本部事務局からは平成28年度事業計画及び収支予算、支部決算処理方法について等の報告があった。ブロック会議終了後は懇親会が開かれ、種々の意見交換をする中で親睦を深めた。(写真は北海道ブロック会議)





インディビジュアル眼鏡レンズの解説

著者プロフィール

大阪大学工学部精密工学科卒業
ワールドオブティカルカレッジ校長
博士(工学)

公益社団法人 日本眼鏡技術者協会

専任講師 金子 弘

これまで累進レンズの多くは、頂点間距離 12mm を前提に設計されるため、実際の頂点間距離が 12mm からかけ離れるとレンズの補正効果に誤差が生じ、さらに視距離や加入度数、瞳孔間距離や累進帯長の組み合わせによっては近用視野が十分に確保できないという恐れがあった。また、フレームの前傾角やそり角が極端な場合、予期せぬ度数誤差が生じることも知られていた。

近年、これらの問題を解決するため、メガネの装用状態をあらかじめ正確に測定し、それをかけたとき網膜上に処方度数が正しく反映されるようなレンズを設計し製作することが可能になった。これがインディビジュアル（個別設計）の眼鏡レンズである。これは装用時の眼球から全方向に向けて細かく光線追跡を行い、網膜の位置において最適な点像として結像するようにレンズ面を設計する手法と、自由曲面の加工技術が格段に進歩したため可能になった。

1. 頂点間距離とレンズ補正効果

一般に、メガネレンズの頂点間距離を狭くして装用すると、補正効果はマイナス方向に変化する（図1）。たとえば -5.00D のレンズがあって、その頂点間距離を 5mm 短くして装用すると -5.13D のレンズをかけたような効果となる。実際のメガネの頂点間距離が測定時と異なる場合は、度数の補正が必要である。

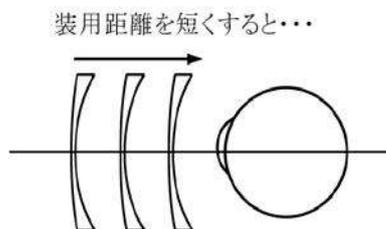


図1 補正効果はマイナス方向に変化

2. レンズの斜交による度数の補正

メガネの前傾角やそり角が通常と異なる場合、レンズ光軸が視線に対して傾くため、フィッティ

ングポイントが合っていない、予期せぬ度数誤差・非点収差（乱視度数）・プリズム効果が発生する。いま仮に -4.00D の球面レンズをハイカーブフレームに枠入れしレンズ光軸が 20° 外方に向いたと仮定して、眼に与える度数効果をマーチンの式で計算すると、視線上では $S - 4.14D \ C - 0.47D \ A90^\circ$ の度数効果となる。等価球面值が増加するだけでなく乱視度数も発生して処方度数との誤差が拡大し、見え方に影響すると考えられる。

そのため個別設計のレンズでは、これらの度数誤差・非点収差・プリズム効果を打ち消すような度数をあらかじめレンズに入れておく工夫がなされる。あるレンズメーカーが提供するハイカーブ用の個別設計では、上記の処方値 $S - 4.00D$ に対して個別設計したレンズを通常のレンズメータで測定すると、 $S - 3.47D \ C - 0.45D \ A180^\circ \ 0.18 \ \Delta \ BI$ の値になるという。等価球面值は処方値より低く、斜交によって発生する非点収差とプリズム効果を打ち消すための度数が加えられている。

したがって、いったん枠入れされたメガネを通常のレンズメータで測定すると、レンズ度数が処

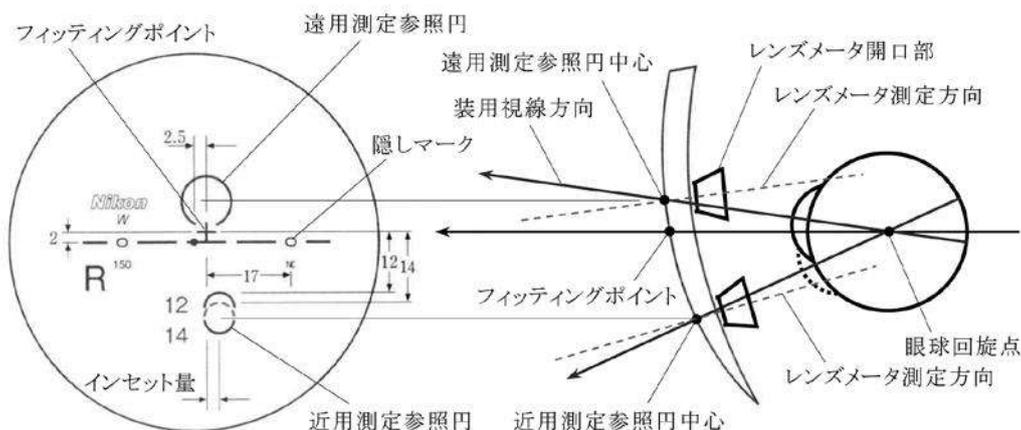


図2 累進屈折力レンズの視線通過位置と度数測定方向

方値と異なるようにみえるだけでなく、プリズム度数のために、光学中心間距離と瞳孔間距離が一致しないようにみえる可能性があるので注意が必要である。

3. レンズメータによる累進レンズの度数測定と問題点

個別設計された加工前の累進屈折力レンズの一例を示す(図2)。レンズ上のフィッティングポイントがちょうど水平視線に合うように枠入れされ、それを装用するとき、処方度数が正確に網膜上に反映できるように設計されている。

このようなレンズをレンズメータで測定する場合、通常は、遠近の測定参照円の後面にレンズメータの開口部を当てて測定するが、これは装用者の実際の視線方向とは一致せず、したがって測定結果も網膜に作用する度数とはわずかに違った値となる。たとえば、乱視処方のない球面度数のみのレンズであっても乱視度数が測定されたり、処方と異なる乱視度数や乱視軸が測定されることがある。

眼に与える度数効果を正確に測定するには、図3のように、眼の回旋点を中心とする半径25mmの球を仮定し、それに内接するように、レンズメータ開口部を向けて測定する必要があるが、それにはレンズを空中で保持する複雑な機構が必要であるため、そのようなレンズメータは実際には普

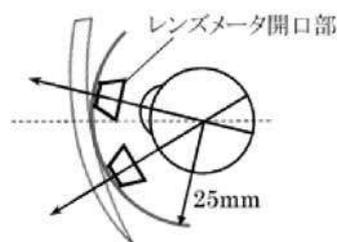


図3 眼に与える正確な度数効果の測定

及していない。また、最新の自動式レンズメータでも正確には測定できない。

4. レンズ度数の二重表記

このように個別設計のレンズは、装用者の網膜上で最適な像が得られるように設計されるため、通常のレンズメータで度数測定した場合、本来の処方値と異なる度数が観測され、処方者と製造者(メーカーや眼鏡店)とのあいだでトラブルの原因となることがある。これは通常のレンズメータで測定する位置や方向、および測定点までの距離が実際の装用状態を反映できていないためにおこる。

この問題に対応するためレンズメーカーは、出来上がりレンズを出荷する際、処方値とともに、レンズメータ測定時に表示すると予想されるチェック度数(確認度数)をカードやレンズ袋などに併記して出荷している。

5. フィッティングの重要性

個別設計のレンズは、きちんとフィッティングされたフレームを顔にかけた時の前傾角やそり角、頂点間距離などのデータをもとに、すべての視線方向で最適化された網膜像が得られるように個別にレンズ設計が行われる。そのようなレンズは、同様にきちんとフィッティングされたフレームに枠入れし装用して、はじめて所期の見え方が得られる。逆にフィッティングがおろそかになると、その効果を十分に享受することができない。装用者の顔に合わせてフレームをうまくフィッティングする技術や、細かく装用状態を測定する技術がますます求められるようになった。

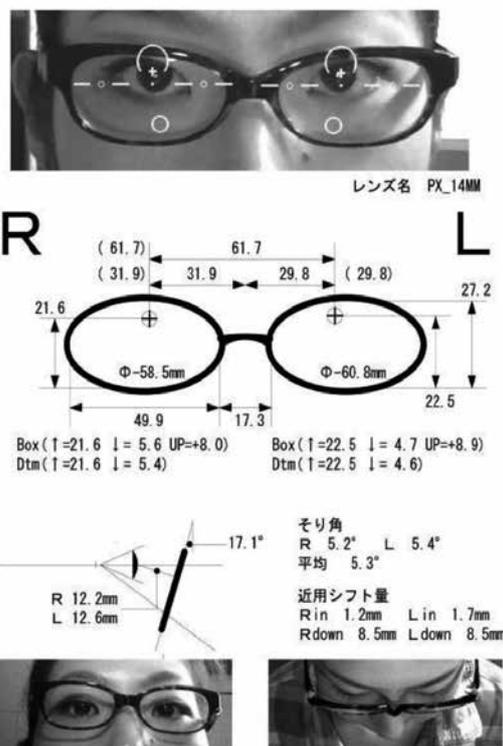
フィッティングのポイントは、前傾角、そり角が適切か、フロントが傾いていないか、角膜頂点間距離が適切で左右差がないか、などである。もちろん、テンプルの開きが適切で、鼻パッドやテンプルチップが適度な角度で調整されている結果、痛みやズリ落ちがなく、いつも同じ位置に快適に装用できることが大切である。そのうえで、左右のアイポイントを正確にとり、近用視距離、累進帯長などを考慮してレンズのレイアウト設計を行う必要がある。

6. フィッティング計測システム

個別設計のレンズは装用状態、フィッティング状態に大きく依存する。そこで、専用カメラやタブレット端末に付属するカメラを用いてこれらを



図4 フィッティング計測機
EveMec(アイメトリクス)



計測するシステムが現れた。その一例を図4に、測定データの出力例を図5に示す。このシステムは、内蔵するカメラで遠方視線、近方視線、斜め上方からの撮影を行い、遠用・近用アイポイント、および、フレーム前傾角、そり角、角膜頂点間距離、玉形サイズなどを、左右別々に0.1mm、0.1°単位で計測する。個別設計の眼鏡に必要なデータの収集には有益なツールである。

7. まとめ

装用者一人ひとりの装用状態に合わせて最適化された個別設計のレンズは、広い視野を確保するとともに、周辺収差を最小限に抑え、さらに両眼の視線を正確に合わせて快適に装用できるとして大いに期待されている。

しかし、それらのレンズは、フレームのフィッティングを適切に行ってはじめて効果が発揮されるので、眼鏡技術者による測定技術やフィッティング技術がますます重要となっている。フィッティング状態をデジタル計測する機器も活用して、これまでにない快適な見え方を提案できる技術と環境を整えたいものである。

● 講師会

12月16日午後3時から新大阪ワシントンホテルプラザで講師会を開催、14名が出席しました。講師会は木方教育部長の司会により、まず平成27年度の教育事業実績の報告、アンケートを基に生涯教育講習会を振り返り意見を出し合いました。

平成28年度の教育事業の方針については、協議の結果、生涯教育のテーマが決まり「視機能検査の実施法 その2」を1時間30分、「眼科診断機器の進歩」を1時間、「光学的調整の時代」を30分で実施することになりました。また、実技講習については、9テーマが決まりました。詳細は6月上旬発行の「教育特集号」をご覧ください。 (写真は講師会)



● 講師会（輪読会）

2月24日午前11時から協会事務局で、輪読会を開催しました。12人が出席し、28年度の生涯教育のテキストの読み合わせをしたうえで言葉や内容について細部にわたり検討したほか、運営方法について話し合いました。 (写真は輪読会)



消費者からの眼鏡相談

消費者の方からのご相談・お問い合わせについては、各地域の消費生活センターなどを通じて受け、当協会消費者委員会（亀井正美委員長）から同センターに回答しています。

相談内容

飯能市役所 生活安全課（2月15日、当協会へ相談のご連絡）

昨年10月25日、枠なしフレームで遠近両用メガネを注文して、11月4日に受け取りました。店員さんから、メガネの位置を鼻眼鏡にするよう指示がありました。（今までになかったこと）遠くが見えづらくなりました。1か月、様子を見ましたが、車の運転時に前の車両ナンバーが見えづらく、車線を変更するために振り向くと見えづらく危険だと感じました。

買った店に行き状態を説明して、遠くが見えるように調整してもらい、見えるようになりましたが、手元が見えづらくなりました。また店に行き状況を説明したところ、メガネの下部分のレンズを5ミリ広げると説明があり、修正後大きくなったメガネは遠くは見えるようになりましたが、手元がますます見えづらくなり、文字がダブって見えました。その後、さらに修正、今まで使用していたメガネと同じ度数で作ることになり、今年の2月5日仕上がりましたが、こんどは遠くも手元も見えづらくなりました。我慢してかけていると眉間が痛くなります。現在はかけていません。

買い求めて3か月以上経過しています。今まで何回もメガネを作りましたが、以前よりフレームが小さいようです。このような状態で解約返金はできるでしょうか？

回答

メガネの良否を決める要素は、度数（大事ですが）だけではありません。

フレームに関しては、レンズ部分の横幅、上下幅、ツルの長さなど。

レンズに関しては、メーカー、設計、度数変化域の長さ、さらに今までのレンズと今回のレンズの違いなど。さらに、フレームのフィッティング、個々のお顔に合わせ、安定して装用できるよう調整など。

最後に、目の表面とレンズ裏面の距離、瞳中心の位置、傾斜角、あおり角などの確認。

以上のような多様な条件が快適さに関与します。

当方がアドバイスできるとすれば、前に使っていたメガネを考慮して、お客様の生活環境にあったメガネをもう一度調製して頂いてはいかがでしょうか。

何度も作り替えに応じているのですから、その眼鏡店は誠実に対応していると思います。

ただ、解約返金ができるかどうかは、なんともお答えできません。

私たち（公社）日本眼鏡技術者協会 認定眼鏡士は、3年間に3回の講習会受講義務が課せられています。その講習会にはフィッティング技術講習なども含まれ、快適なメガネを提供するために勉強しております。

アイポイントのばらつきについて

ワールドオプティカルカレッジ 青山愛実
指導 近藤正巳

<緒言>

累進屈折力眼鏡の作製においては、アイポイントをいかに正確に測定しレイアウトするかが極めて重要である。アイポイント（以下 EP）とはメガネをかけて遠くを見たとき、左右眼の水平視線とレンズ前面の交点で、メガネのブリッジ中央から左右の EP までの水平距離が各眼の瞳孔間距離（Pupillary Distance：以下 PD）に相当し、フレーム下縁からの高さがアイポイント高さ（EP 高さ）に相当する。ところが EP の測定値は、測定条件によって多少のばらつきが生じる。そこで測定方法および測定者の違いによる平均値とばらつきの大きさを実際に調査し、結果を得たのでここに報告する。

<方法>

被験者は 1 名（女性 20 歳）で、日常使用しているナイロールのメガネを用いて行った。EP の測定は、次の①～④の方法で行った。⑤⑥は PD の精度を検証する参考データとして測定した。①写真撮影（座位）、②写真撮影（立位）、③ビデオ計測システム（立位）、④メジャー測定（座位）、⑤ PD メーター（座位）、⑥オートレフ（座位）

①②写真撮影は、座位、立位ともに 3m の距離から、被験者の眼と同じ高さにカメラを設置してストロボ撮影した。メガネのレンズ面には、1 mm 間隔のスケールを碁盤の目のようにプリントした EP 確

認シールを貼付した。撮影は 1 回ごとにリフレッシュし合計 10 回行った。撮影した画像はパソコンに取り込み、これを拡大して EP（角膜反射点）の X、Y 座標を求めた（図 1）。

③ビデオ計測システムは、ZEISS 社の iTerminal2 を使用した。これはメガネの装用状態を 3 方向から撮影し、EP 高さ、片眼 PD、前傾角、角膜頂点間距離などを自動計測するものである。

④メジャー測定は、14 名の測定者（学生 2 名、店舗経験者 12 名）が普段行っている測定方法で 3 回ずつ、座位で測定した。

⑤ PD メーターは TOPCON PD-5 を使用し、⑥オートレフメーターは TOPCON RM-8800 を使用して、それぞれ座位で、両眼 PD を 10 回ずつ測定した。

<結果>

EP の水平成分である片眼 PD、および垂直成分である EP 高さについて、①写真（座位）、②写真（立位）、③ビデオ（立位）にて 10 回ずつ計測した左右別の平均と標準偏差の結果を表 1 に示す。数値の単位は mm で、平均±標準偏差で表示している。

どの測定法でも片眼 PD のばらつきは比較的小さく、EP 高さのばらつきは比較的大きくあらわれた。

まず、①写真（座位）は全平均に最も近い値となり、ばらつきも小さく計測されたが、②写真（立位）はそれに比べてばらつきが大きく、安定度が低いことがわかった。

③ビデオの EP 高さは、全平均より右眼は 0.6mm、左眼は 1.0mm も低く計測されたが、他の測定法に比べて標準偏差の値が小さく、測定値のばらつきは最



図 1 撮影画像を拡大し角膜反射点の位置を読み取る

表1 ①②③によるアイポイントの測定結果 (n=10)

	片眼 PD (mm)		EP高さ (mm)	
	右眼	左眼	右眼	左眼
①写真撮影(座位)	31.7±0.2	32.0±0.2	17.5±0.5	16.7±0.5
②写真撮影(立位)	31.1±0.3	32.3±0.2	17.7±0.6	16.9±0.6
③ビデオ計測(立位)	31.9±0.2	31.8±0.1	16.7±0.4	15.3±0.5
平均	31.6	32.0	17.3	16.3

も小さいことがわかった。

次に、同じ一人の被験者を14名の測定者が3回ずつ、④メジャーを使って、通常各自が行っている方法で計測した結果を表2に示す。

表2 ④メジャーによるアイポイントの測定結果 (n=10)

	片眼PD(mm)		EP高さ(mm)		両眼PD (mm)
	右眼	左眼	右眼	左眼	
平均	31.3	32.1	18.3	18.4	63.4
標準偏差	0.6	0.5	1.1	1.0	0.9

④メジャーによる測定値のばらつきは、カメラや器械を用いた測定値(表1)に比べて、標準偏差の幅が大きく、測定者によって大きくばらついた。同じ被験者であるにもかかわらず、測定者によっては片眼PDが最大1.7mm、EP高さが最大3.7mmの差が認められた。各測定者の3回の計測値のばらつきは、経験の浅い学生では大きく、店舗経験者では小さくなり、経験によって計測値が安定する傾向が認められた。

そして、①～⑥の各方法による両眼PDの測定結果の平均および標準偏差を図2に示す。

PD測定の実験値は、⑤PDメーターが最も大きく、

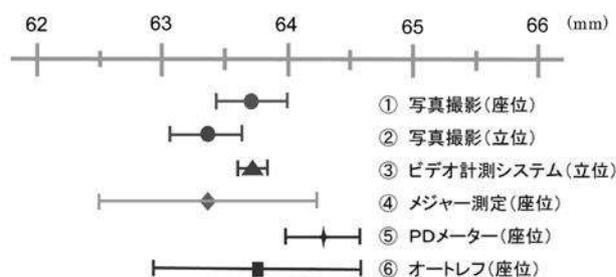


図2 両眼PDの測定結果の比較

その他の方法ではほぼ同様の結果が得られた。

測定値のばらつきは、③ビデオが最も小さく安定していた。逆に、④メジャーは多数の測定者がそれぞれの方法で計測するため、ばらつきの幅は拡大した。また⑥オートレフについては測定者1人による計測にもかかわらず、ばらつきの幅は大きくなった。

<考按>

①写真(座位)のばらつきが②(立位)より小さいのは、座ることで測定の安定性が増したためと考えられる。

④メジャー計測のばらつきが大きいのは、被験者と測定者の身長差などのため、両者の目線の高さが異なっていたためではないか、あるいは、測定者が遠近や中近累進メガネを装着している場合、近用部を使うために顎を上げて計測する傾向が見られ、EP高さの測定結果に影響が出たのではないかと考えられる。また、測定者によってはペンライトなどの固視目標を提示する高さが左右で異なることがあり、これがEP高さの測定に影響したと考えられる。片眼PD、EP高さに左右差はないだろうとの誤った予測で、左右を同じ数値に揃えてしまう人も見受けられた。その他、測定者のクセとして片眼を閉じると顔が傾く人もいた。概して、経験の浅い学生による測定値はばらつきが大きく、店舗経験者のそれは小さいことから、経験の差がばらつきの大きな要因だと考えられる。メジャーを用いて測定する場合、被験者と正対する位置や向き、および眼の高さ、固視目標を出す位置などを強く意識して、位置関係を常に正しく保って測定する必要がある。

<結論>

1人の被験者のアイポイントをいろいろな方法で測定し、その結果を比較したところ、より正確な測定には座位で測定するのが望ましい、ビデオ計測システムはEP高さが最も低く計測されたが、ばらつきは少なく安定していることがわかった。また、メジャー計測では被験者の顔の向きを確認しながら、ペンライトを注意深く提示し、被験者の正面から目線の高さを合わせて、座位で測定するのがよい。

理事会 報告

日時／平成28年3月2日(水)
午後2～4時
会場／ニューオーサカホテル
出席／理事総数25名中、出席22名、
欠席3名。監事2名中、出席2名



理事会風景



あいさつする津田会長

津田会長は冒頭「新年度の予算案を決める大事な理事会であるが、事前送付資料からも分かるように積立金の一部を取り崩すという非常に厳しい予算案となっており、各部に対して支出抑制をお願いしている。平成29年度も一段と厳しい予算となる見込みで、執行部としては、まず抑えられる支出は抑えた上で必要があれば会費の値上げの可能性もあるということを確認しなければならない。私が会長に就任した頃は内部留保が1億円あったが、厚生労働省より内部留保を事業費規模の6千万円まで減らせとの指導で4千万円を積立金とした経緯があるが、これを取り崩すという想像していなかった事態。これは、かつて厚生労働省から当協会はお金があり過ぎると槍玉に挙がっていたことと、公益社団法人になった後も公益事業で黒字を出してはいけないという制約から来ており、特に平成27年度では17百万円の赤字予算だったので平成28年度への繰越金が少なくなって遣り繰りが出来ず、積立金の取り崩しという事態になったが、平成28年度以降の財政を非常に厳しく考えていかなければならない。



説明する豊福総務部長

もう一つは、昨年11月の推進機構総会で従来厚労省一本の折衝窓口を複数の省庁に増やすということで、経済産業省に当たっていたところ、旧労働省の管轄である技能検定制度にメガネを加えるという提案を受け、技能検定制度の中に眼鏡士を取り入れることを考えている。経産省と具体的な話をする中で、業界団体としてまとまっていることを求められている。売上No.1のメガネトップが推進機構に入っていないことを指摘されているので、メガネトップがこの資格制度推進に反対しない、賛成しているということを取りつける折衝を進めている。



説明する木方教育部長

もう一つは、眼鏡技能士（仮称）となった場合の業務として眼鏡を調整するための視力測定を含めることについて日本眼科医会の了解を取りつけておく必要がある。これについては3月17日に日本眼科医会と正式な会合を持つ予定となっているが、厚労省の中でも旧労働省の管轄になる技能検定制度の中ならば、医療行為に立ち入らないということは明白であると言え、眼科医会が最も恐れているのは眼鏡士が保険を含めた医療分野に立ち入ることなので、極力ご理解がいただけるようにつとめる。色々なご意見をお聞かせいただく中で本日の理事会を有意義なものにしたい」と述べた。



説明する中島財務部長

【審議事項】

議題1. 平成28年度事業計画（案）並びに収支予算（案）

①平成28年度事業計画（案）／豊福総務部長が資料に基づき詳細に説明した。②平成28年度収支予算（案）／中島財務部長が事前送付資料及び当日差替え資料に基づき詳細に説明した。積立金を取り崩さねばならない状況の中で、各部長に依頼して出来る限りの緊縮予算としたが、実行面で更に支出削減を求められる危機的な状況である。収入は右肩下がりであ



説明する辻広報部長



説明する福田 HP プロ
ジェクトリーダー

るが支出は横這いの状況。収入に見合った活動にしていかなければならない。
(意見) 学校への調査・研究奨励金については、廃止の方向で学校協会の会議で集約する。
(意見) SSS のシステム使用料について、見直しを先方に申し入れることを考えている。
平成 28 年度事業計画(案)並びに収支予算(案)全般について、全員の拍手で承認された。

議題 2. 平成 28 年度生涯教育の実施について

木方教育部長が資料に基づき、生涯教育の実施要領、テーマについて説明した。
(意見) 2 限目の眼科学について、地元の眼科医に講師となっていただく場合、テーマはテキストの内容に拘束されるのか。(回答) 必ずしもテキストの内容に限定されるものではなく、眼科医独自のテーマであっても構わない。

平成 28 年度生涯教育の実施について、全員の拍手で承認された。

議題 3. 平成 28 年度 PR 事業について

辻広報部長より次の 3 点について報告／(1) 広報活動について、会報は以前 16 ページで編集していたが現在は 20 ページを基準としており、今後は眼鏡学などの内容の充実を図っていく。(2) 認定眼鏡士の普及啓蒙事業について、事業の前倒しとして更新者に対し既に「認定眼鏡士」ステッカーとリーフレットを同封して発送しているが、平成 28 年度の事業としては「メガネのお手入れ」の新しいリーフレットを計画している。今年度実施したミニカレンダーについては、次年度は各ブロックを象徴する写真を入れるなどの工夫をしての発行を計画している。(3) ホームページの管理拡充について、プロジェクトリーダーの福田氏より資料に基づいて説明した。3 月 30 日に新しいホームページをアップ予定。
(意見) 去年のミニカレンダーは老若男女や幅広い考え方の層がある中で使い勝手について様々な意見があったが、実用性の高いメガネ拭きなどの方がいいのではないか。(回答) 昨年のメガネ拭きは非常にコストが高かったし、カレンダーを使って下さっている方々も結構おられる。(意見) 輸送費削減のため生涯教育講習会などで配布してはどうか。(回答) PR グッズの配布は、①会報などへの同封、②支部行事や生涯教育時に支部単位でまとめて送付の 2 つの方法をとっており、PR グッズ単独で送ることはない。

平成 28 年度 PR 事業について、全員の拍手で承認された。

【報告事項】

(1) 眼鏡技術者国家資格推進機構の最近の動きについて／推進機構代表幹事代行の役職にある岡本理事が資料に基づき 2 件報告。1 件目の資料は雑誌の対談記事で、資格制度推進の基本的な考え方が書いてあるので、各支部での啓蒙活動に役立てていただきたい。2 件目の資料は推進機構の最近の動きについて、各関連機関より求められていること、今後の技能検定制度活用による推進方法についてまとめている。

(2) 組織活性化特別委員会／横山組織活性化特別委員会副委員長が資料に基づき報告。今年度の青年部・女性部主催セミナーを、東京、大阪、愛知で開催し、61 名の受講。次年度はファッション・フレームに関する第 3 回目のセミナー開催を予定。ピンバッジの件は、希望者に 3,000 円～3,500 円での頒布を考えている。(意見) バッジはいつ頃の発売になるか。(回答) デザインの承認を頂いてからの発注となる。→デザインについては承認。(意見) 資格制度の推進状況によっては JOA や SS の表記が変わる可能性もあるので、6 ヶ月くらい待った方がいいのではないか。(回答) 了解した。

(3) その他／①会員数並びに認定眼鏡士登録者数／会員数 5,986 人、認定眼鏡士 7,131 人(平成 28 年 1 月末現在) ②今後の会議日程／豊福総務部長が資料に基づき報告した ③日眼協の大規模災害支援システム構築委員会について／福田氏(大阪府支部)より口頭で報告した。



意見を述べる吉野女性
部長



意見を述べる清水理事



報告する岡本理事



報告する平岩理事



報告する横山理事

平成 28 年度 事業計画

1. 総会の開催（法人会計）

（1）平成 28 年 6 月に通常総会を開催し、①平成 27 年度事業報告および収支決算。②平成 28 年度事業計画および収支予算等について審議。

2. 理事会の開催（法人会計）

（1）平成 28 年 5 月に理事会を開催し、①平成 27 年度事業報告および収支決算。② 6 月に開催する通常総会の議案等について審議。

（2）平成 28 年 10 月に理事会を開催し、平成 28 年度上期事業報告および中間決算報告を中心として審議。

（3）平成 29 年 3 月に理事会を開催し、平成 29 年度事業計画および収支予算について審議。

3. 正副会長会議の開催（法人会計）

（1）原則として、総会、理事会の開催に先立ち、議案の内容について審議。

4. 認定眼鏡士の資質向上に関する教育事業

消費者の求めに応じ眼鏡を調製する眼鏡技術者に、消費者の視力を保護し、最新の技術知識によるビジョンケアを提供する上で、消費者の信頼が得られるよう眼鏡技術者の責務を明確にし、資質を維持向上させるための資格認定試験および資格取得者（認定眼鏡士）に対する生涯教育を実施する。

（1）SS 級認定眼鏡士の認定試験（公 1）

眼鏡専門学校を卒業せずに認定眼鏡士の資格を取得しようとする眼鏡技術者を対象とした資格試験である。試験合格者は、眼鏡専門学校の 3 年制のカリキュラムを修了した人と同一レベルの資格と位置づけている。試験の実施時期は例年 8 月～9 月の予定。試験内容は、学科 5 科目と実技 3 科目。

①学科試験：視機能系、マネジメント系、医学系、光学系、加工調整系の 5 科目：5 会場 + α 、1 日。

②実技試験：加工、視力測定、フィッティングの 3 科目：5 会場、1 日。

（2）生涯教育（公 2）

眼鏡技術者に、ビジョンケアに関する最新技術・知識を教育するため、毎年時機に適したテーマを選定し、全国各支部を巡回し講習会を開催する。講習会は、毎年 6 月下旬からスタートし、11 月頃までの期間で、支部ごとに会場を確保して実施する。今年度のテーマ、スケジュールなど詳細は 5 月に発行する「教育特集号（保存版）」に掲載。①生涯教育(学科講習会) 3 時間/会場 35 会場。②実技講習会 3 時間/会場 20 会場。

（3）SSS 級認定眼鏡士への進級のための講習会ならびに試験（公 1、公 2）

認定眼鏡士として最上級の資格である SSS 級認定眼鏡士の資格試験は 7 科目の学科試験が行われる。試験に先立ち事前講習会を開催する。実施時期は例年 8 月～9 月の予定。

① SSS 級認定試験事前講習会（年 1 回）1 会場、4 日間。② SSS 級認定眼鏡士試験（年 1 回）2 会場、各会場とも 7 科目/2 日間。

（4）S 級認定眼鏡士は、眼鏡専門学校の卒業生および通信教育課程修了者の申請を受け付ける。

5. 新入会員受付（法人会計）

（1）眼鏡専門学校の卒業生および当協会の実施する認定眼鏡士試験に合格した人の当協会への新入会は年間を通して随時受付を行う。

6. 認定眼鏡士登録・更新（公 1）

（1）眼鏡専門学校卒業生および SS 級認定眼鏡士試験に合格した人を対象に新規登録の受付を、また既に認定眼鏡士の登録を済ませた後、3 年が経過し、かつ更新に必要な生涯教育の受講回数を満たした人を対象に更新登録の受付を実施する。受付期間は、12 月～翌年 3 月末までとして、登録日は 4 月 1 日付とする。

7. 認定眼鏡士制度の普及、啓蒙事業（公4）

- （1）消費者に対して認定眼鏡士の目的、役割等についてPR活動を展開する。
- （2）各支部においては、10月1日のメガネの日を中心に支部の実態に応じたPR活動を実施する。

8. 社会福祉事業（公5）

眼鏡技術者の社会的使命を遂行するため、失明予防事業への協力や、メガネの無料点検などの社会福祉活動を実施する。

- （1）毎年10月に開催される「目の愛護デー」の協賛活動は、支部単位に参加する。
- （2）日本失明予防協会への失明予防活動助成金の寄付を年1回、下半期に実施する。

9. 広報活動事業（公4）

- （1）会員向け広報誌の発行。4月、10月の2回は、認定眼鏡士制度の運用状況、生涯教育テーマ・日程、総会・理事会等の決定事項、ビジョンケア関連技術等について、また5月には年間教育日程を集約し教育特集号として、広報誌を発行。
- （2）ホームページの管理・拡充。消費者、会員に向けて随時情報を更新する。

10. 組織強化と支部活動支援事業（法人会計）

ブロック会議を開催し、協会の事業方針、活動内容を周知するとともに、支部役員との意見交換を通じ地方の声を協会の活動に反映させる。また、より広範囲の会員の声を反映し協会活動の活性化を図るため会員組織部に設けた「青年部会」および「女性部会」の活動を充実させる。

- （1）毎年1回、10ブロック毎にブロック会議を開催する。
- （2）支部活動支援のため、原則として5月に支部助成金を支給する。
- （3）青年部、女性部の組織化、活性化を図る。

11. 眼鏡技術に関する国内外の資料および情報の収集、調査、研究事業（公3）

ビジョンケアに関する新しい技術・知識について、資料および情報を収集するとともに、眼鏡技術者の国際的な公的資格制度に関する調査・研究を行う。また、海外のオプトメトリストの制度・ビジョンケアについての最新情報などについて調査、研究を行い、セミナー開催による情報の共有化等を図る。

- （1）眼鏡専門学校生の研究事業を助成するため、優秀な研究テーマに対して奨励金を拠出する。該当研究内容については、広報誌などを通じて周知を図る。
- （2）学術的テーマに関しては、日本眼鏡学会との共催によるシンポジウムを開催し、より幅広い技術・知識修得の場を提供する。
- （3）認定眼鏡士制度が、消費者からより一層の信頼を得られるよう認定資格制定委員会を開催し、制度の見直し・拡充を図る。

12. 海外眼鏡技術者との交流事業（公3）

ビジョンケアに関する海外の状況を定期的に把握するとともに、日本の現状を紹介する。相互の交流を通じてビジョンケアの質的向上を図る。

- （1）毎年1回開催される世界オプトメトリー会議へ出席予定。

13. 関係団体との協調に関する事業（法人会計）

- （1）日本眼鏡関連団体協議会が原則として年4回開催する幹事会に出席し、認定眼鏡士の登録状況報告などを通じて、眼鏡業界の動向把握・協調体制の確立に努める。
- （2）眼鏡技術者の公的資格の成立に向け、「眼鏡技術者国家資格推進機構」の中で具体的な取り組みを行う。
- （3）日本眼鏡販売店連合会との協調に努める。
- （4）各地区消費者センター等の関連団体との協調に努める。

平成28年度 収支予算書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

科 目	予 算 額	前年度予算額	前年度対比	備考
	(円)	(円)	(円)	
I. 収入の部				
1. 入会金収入	3,200,000	3,200,000	0	
2. 会費収入	37,821,000	39,613,000	△ 1,792,000	
3. 特別会費	30,289,000	30,500,000	△ 211,000	
4. 教育部収入	22,909,000	33,009,000	△ 10,100,000	
5. 雑収入	431,000	431,000	0	
6. 支部事業収入他	1,298,000	850,000	448,000	
7. 眼鏡教育事業積立金取崩し	10,000,000		10,000,000	
当期収入合計 (A)	105,948,000	107,603,000	△ 1,655,000	
前期繰越収支差額	9,484,339	20,692,369	△ 11,208,030	(注1)
収入合計 (B)	115,432,339	128,295,369	△ 12,863,030	
II. 支出の部				
1. 事業費	61,449,000	70,718,000	△ 9,269,000	
(1) 教育関連事業	29,600,000	30,450,000	△ 850,000	
(2) 普及啓蒙事業	8,000,000	10,000,000	△ 2,000,000	
(3) 社会福祉事業	800,000	800,000	0	
(4) 広報活動事業	3,140,000	3,850,000	△ 710,000	
(5) 組織強化事業	9,226,000	12,550,000	△ 3,324,000	
(6) 調査研究事業	730,000	1,000,000	△ 270,000	
(7) 海外交流事業	2,410,000	2,910,000	△ 500,000	
(8) 関係団体事業	300,000	300,000	0	
(9) 支部事業費	7,243,000	6,858,000	385,000	
(10) 50周年記念事業費		2,000,000	△ 2,000,000	
2. 管理費	50,680,000	54,370,000	△ 3,690,000	
(1) 本部管理費	38,255,000	41,342,000	△ 3,087,000	
(2) 支部管理費	12,425,000	13,028,000	△ 603,000	
3. 予備費	0	0	0	
当期支出合計 (C)	112,129,000	125,088,000	△ 12,959,000	
当期収支差額 (A)-(C)	△ 6,181,000	△ 17,485,000	11,304,000	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	3,303,339	3,207,369	95,970	

(注1) 28年度予算額の欄の前期繰越収支差額 9,484,339 円は、平成27年度決算見通しに基づく見込数値を記載

公益事業区分の解説

(注記) 各事業計画末尾の(公1)、(公2)、(公3)、
(公4)、(公5)、(法人会計)の解説

公益社団法人への移行(平成23年4月1日)に伴い、公益事業を意識した事業運営が求められている。当協会が内閣府に対して申請した公益事業の概要を記載し、これまでの事業が公益事業のどの区分に該当するか、事業計画の項目毎に追記し明確化した。

(公1：公益事業1) = 「資格付与」に関連する事業。

「眼鏡技術者の資質の向上を図ることを目的として、一定の技術・知識レベルを持った人を「認定眼鏡士」として認定し、3年間の有効期限付き「認定眼鏡士登録証」を発行。また、資格保有者に対して生涯教育の受講を義務づけ、有効期間内に一定の条件を満たした人に、有効期限を更新した「認定眼鏡士登録証」を交付している。このように常に最新の技術・知識をもった認定眼鏡士を認定することにより、一般消費者が適切な視力を維持するための支援が出来る人材を認定し公表することにより、一般消費者の利益の増進に寄与する事業。」

具体的事業 ①SS級認定眼鏡士資格試験(教育部担当) ②SSS級認定眼鏡士資格試験(教育部担当) ③S級、SS級及びSSS級の認定眼鏡士登録証発行(会員組織部担当) ④認定資格制定委員会の運営(法制部担当)

(公2：公益事業2) = 「講座、セミナー、育成」に関連する事業

「眼鏡技術者の資質の向上を図るため、会員はもとより一般の眼鏡技術者に対して、新しい技術・知識を盛り込んだ講習会を毎年開催する。このことにより、一般消費者は常に新しい技術・知識に基づくビジョン・ケアを受けることが出来るなど、一般消費者の利益の増進に寄与する事業。」

具体的事業 ①生涯教育・実技講習会(教育部担当) ②SSS級試験の事前講習会(教育部担当)

(公3：公益事業3) = 「調査、資料収集」に関連する事業

「国内外の眼鏡関連団体との交流を通じて、新しい技術・知識についての情報収集や、眼鏡専門学校の毎年の卒業生の優秀論文を収集し、HP、会報誌等に掲載し、眼鏡技術者の知識レベルの維持向上に貢献し、もって一般消費者の利益の増進に寄与する事業。」

具体的事業 ①WCO(世界オプトメトリー会議)、APOC(アジア太平洋オプトメトリー大会)、ISO国際会議、等への出席や国内の眼鏡学校卒業生の優秀論文の収集などを通じて、国内外の新しい技術・知識の情報を収集(国際部、法制部担当)

(公4：公益事業4) = 「キャンペーン」に関連する事業

「認定眼鏡士の目的、役割、該当する眼鏡技術者の公開等を通じて、一般消費者が適切な視力を維持するための支援が出来る人の存在を知らしめる等、一般消費者の利益の増進に寄与する事業。又、メガネの日を中心とした地域に於けるメガネの洗浄、修理等のボランティア事業の他、会報誌、HPを通じて会員並びに一般の眼鏡技術者に新しい技術・知識の情報を提供し眼鏡技術者の活性化を図り、もって一般消費者の利益の増進に寄与する事業。」

具体的事業 ①認定眼鏡士PR(広報部担当) ②会報誌の発行(広報部担当) ③教育特集号の発行(教育部、広報部担当)
④ホームページの維持・改善(広報部担当)

(公5：公益事業5) = 「助成」に関連する事業

「国内外への失明予防活動への寄付金事業等を通じた目に関する社会福祉事業。」

具体的事業 ①日本失明予防協会への寄付金事業

(法人会計) = 組織(技術者協会)を維持するための活動

具体的事業 ①総会、理事会、会員管理、会費の入金・支出管理等上記の5つの公益事業に属さな事業を「法人会計」関連事業と位置づけている。

1月27日、午後2時から協会事務局でホームページ委員会が開かれました。出席は、辻広報部長、福田プロジェクトリーダー、ホームページ制作会社担当、本部事務局。

制作会社がこれまでの仕様、打ち合わせについて総括として説明したあと、微修正を含めた最終の打ち合わせが行われました。

その後、デザインと仕様についての確認書およびデータ登録システムの発注書を取り交わし、最後に今後のスケジュールとして、2月下旬にホームページの完成、3月にテストアップ、4月からリリースと確認しました。(写真は広報部会)



- ・ホームページの中の「認定眼鏡士のいる店舗を探す」は、5月以降は毎月中旬の更新となります。転勤や就職、改姓などがありましたら、変更届でお知らせください。変更届は、ホームページからですとフォームから直接、またPDFをダウンロードしてFAXや郵送でお送りいただくことができます。

リーフレット2種類をお届けします

今年度の認定眼鏡士のPRは、「大切なメガネを長持ちさせる メガネのお手入れ」と題したリーフレットを制作します。内容は、メガネのお手入れについてイラストで分かりやすく優しく解説しています。6月初め発行予定の教育特集号に従来のリーフレット「私のメガネは認定眼鏡士に作ってもらいました」とともに各25部お届けします。どうぞご活用ください。

●会報について

会報は、今年度より4月および10月の年2回の発行となりました。教育特集号は従来通り6月の発行です。

●通常総会のお知らせ

平成28年度の通常総会は、6月15日(水)午後2時から、東京・KKRホテル東京(東京都千代田区大手町1-4-1)で開催します。代議員の皆様にはご出席をよろしくお願いたします。

●会費や更新料について

今年度の会費の払込票を4月中旬にお送りしておりますので、コンビニや郵便局からお払込みいただきますよう、どうぞよろしくお願いたします。

また、今年度の認定眼鏡士更新の方で3回の受講をされた方には、更新料の払込票をお送りしております。ご入金がない場合は更新ができませんので、ご確認くださいませようよろしくお願いたします。

2016年度のリーフレット



編集後記

厚労省の指導で、内部留保4千万円を積立金としていましたが、急激な会員減少に伴い、平成27年度は1千7百万円の赤字予算を計上しました。平成28年度以降の財政は非常に厳しく、広報部では本会報誌年3回発行を2回に、また「認定眼鏡士」制度のPR活動も、2割もの削減を強いられる事になりました。

しかしながら、本協会生涯教育専任講師16名の先生方のご協力を頂き、お店で活躍される認定眼鏡士のために「誌上眼鏡学」次いで、今話題のテーマを解説する「close-up OPT」を掲載することとし、誌面の充実を致します。

私たちは、自然的・社会的・文化的環境によって影響されています。それらの改善に努力して社会全体を歩進向上させなくてはなりません。また家庭環境を改善することも大切です。その努力が、私たちの生存と発達を保障するものであります。

草が燃え花々が咲き、人々の心は温かな陽光で心を癒される。この時期、色とりどりのにぎやかな花々も大変魅力的ですが、やわらかな薄緑のみずみずしい木々の新芽の存在感に目を奪われる。

※ 柳は緑 花は紅

満面に微笑みをたたえて 山は青く 花燃える(戦)